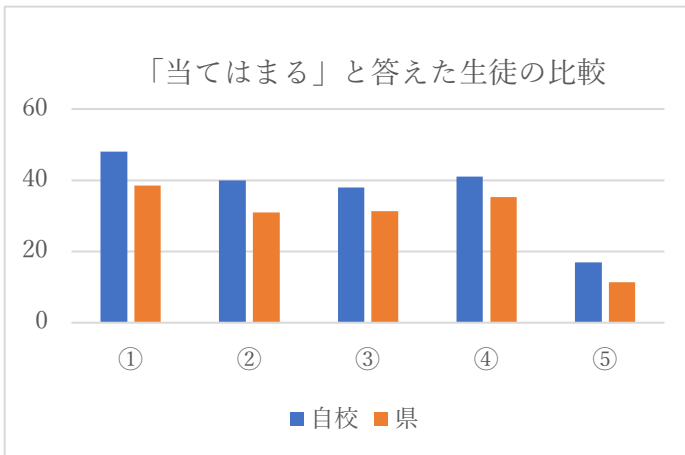


◆生活習慣に関する「質問紙（意識）調査」から

【 数値が特に高かった項目 】

	調 査 の 項 目
①	将来の夢や目標を持っていますか。
②	自分にはよいところがあると思いますか。
③	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
④	先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。
⑤	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

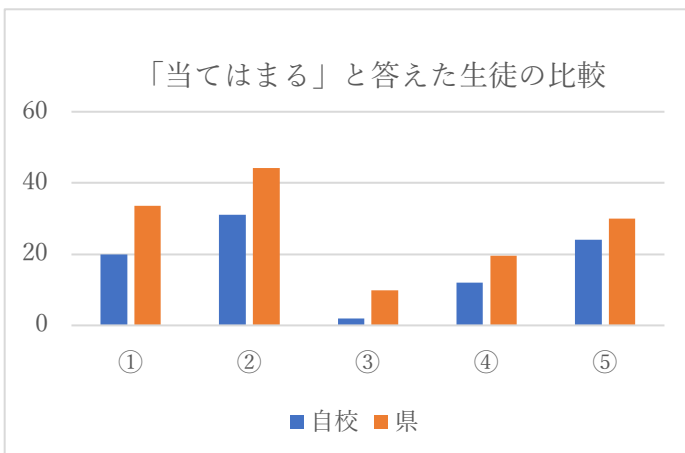


分析と取り組み

「当てはまる」と答えた生徒が県平均を大きく上回っている上位5項目である。善行掲示板や生活アンケートなどを利用して自己肯定感を高めたり、生活ノートや教育相談、普段の関わりを通して生徒との距離を縮めたりする取り組みが成果として表れたものと思われる。今後も生徒に寄り添う活動を継続していきたい。

【 数値が特に低かった項目 】

	調 査 の 項 目
①	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。
②	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。
③	1, 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。
④	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。
⑤	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



分析と取り組み

①～⑤の項目においては、県平均を大きく下回っている。①②の項目からは、入学当時からコロナ禍で、学びあい活動が制限されたためだと考えられる。また④⑤の項目からも、交流の場に慣れていないため、自分の意見を他人に伝えることに抵抗がある生徒が多いように感じる。以上のことをふまえ、現在行っている授業等での ICT 機器の活用をさらに進めながら、スキルタイムや道徳でのグループ活動を通し、自分だけではなく他者との学びを深められるよう支援していきたい。

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 国語科 》

全体の概要

全体の正答率は全国平均を下回る結果となった。特に、「思考・判断・表現」の観点では正答率が低く、自分の考えを分かりやすく伝えるための表現力や語彙力が十分に身につけていないことが分かった。しかし、「知識・技能」の「我が国の言語文化に関する事項」では、正答率が県平均とほぼ同じで、無解答率も0%であった。また、質問紙調査では、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対して、肯定的な回答をした生徒が9割以上おり、全国平均を上回っていた。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は、全国平均を下回る結果となった。しかし、文脈に即して漢字を正しく書く問題では、県や全国平均を大きく上回る正答率のものがあった。この結果から、習得した漢字を普段からよく使用していることが分かる。一方で、「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する問題では、全国平均を大きく下回った。この結果から、表現の技法について名称は知っていても、どのような技法であるかを理解している生徒が少ないのではないかと考えられる。</p>	<p>全体の正答率は、全国平均を下回る結果となった。特に「話す・聞く」の領域で、スピーチのどの部分をどのように工夫して話し、その意図を答える問題では、全国平均を大きく下回った。この結果から、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す機会が少ないことが考えられる。また、「書く」の領域で、資料の一部から必要な情報を引用し、意見文に書き加える問題では、県や全国平均と比べて無解答率が高かった。この結果から、自分の考えが伝わるように根拠となる情報を選ぶこと、根拠を明確にして文章を書くことが苦手な生徒が多いということが考えられる。</p>



分析結果・自校の課題	<p>「知識・技能」の観点については、授業の中で言葉に着目し、生徒の語彙力の拡充をめざす。表現の技法などについては、タブレットを利活用しながら、基礎的な知識を定着させる。</p> <p>「思考・判断・表現」の観点については、文章を書く活動を授業により組み込むだけでなく、説明文の授業で筆者の考えとその根拠を読み取る活動にも力を入れる。自分の考えを支える情報を選択すること、根拠を明確にして考えを書くことにつなげていく。</p>
------------	---

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 数学科 》

全体の概要

全体の正答率は県平均を下回る結果となった。特に、「数と式」と「関数」の領域で大きく下回った。「関数」の記述式の問題の無回答率が高く、資料から必要な情報を正しく読み取ることが苦手な生徒が多いことが分かった。しかし、「データの活用」の領域では、正答率が県平均とほぼ同じであった。また、質問紙調査では、「数学の勉強は好きですか。」「数学の授業内容はよくわかりますか。」の問いに対して、肯定的な回答をした生徒が県平均を大きく上回っていた。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は、県平均を下回る結果となったものの、「データの活用」の領域においては正答率がほぼ同じであった。これは、2年時での「資料の活用」の領域の授業において、毎回導入として1年時の授業の復習を取り入れたため、基礎・基本が定着したからだと考えられる。一方で、「数と式」と「関数」の平均正答率が県平均を大きく下回った。連立方程式の計算や、素因数分解の意味など、基本的な計算技能や知識につまずきがある生徒が多いと考えられ、それが「関数」の領域にも影響を及ぼしていると考えられる。</p>	<p>全体の正答率は、県平均を大きく下回る結果となった。特に、「関数」の領域では、無回答率がとても高かった。これは、問題文や資料の中から必要な情報を正しく読み取る力が身につけていないことが考えられる。また、「数と式」の領域でも、文字を使って事柄が成り立つ理由を説明する問題の正答率が低かった。式が持つ意味を理解していなかったり、その式を導くために式を変形していくところにつまずきが見られたりしたため、結果として自分の考えを正しく表現できていない生徒が多いと考えられる。</p>



分析結果・自校の課題	<p>「知識・技能」の観点については、昨年度同様9月から10分間の朝ドリルと、15分程度の放課後学習会、タブレットのドリル学習を実施し、基礎・基本の定着と、生徒自身が「問題が解けた」という充実感を味わえるようにする。</p> <p>「思考・判断・表現」の観点については、毎単元自分の考えを説明する授業を1回は取り入れるようにする。その際、タブレットを活用して自分の考えを全体に共有できるようにする。自分で考えるのが難しい生徒についてはタブレットや電位黒板を活用して他者の考えを参考にできるようにする。</p>
------------	--

◆令和4年度全国学力・学習状況調査 《 中3年生 理科 》

全体の概要

全体の正答率は全国平均をやや下回る結果となった。特に「記述式」の問題で無解答率が全国平均よりも高かった。予想や仮説に基づく実験・観察の方法を考えたり、実験・観察結果から考察したりしたことを文章で表現することを苦手としている生徒が一定数いることが分かった。しかし、「短答式」の問題では県・全国平均よりも大幅に正答率が高く、領域別では「粒子」を柱とする領域では全国平均をやや上回っていた。

観点	知識・技能	思考・判断・表現
分析結果・自校の課題	<p>全体の正答率は、全国平均を大きく下回る結果となった。どの問題においても無解答率は高くないものの、誤答に偏りがある問題がいくつか見られた。例えば、「エネルギー」を柱とする領域では、静電気を帯びる現象について聞かれているのに静電気が流れる現象を選んでいる生徒が見られた。また、「地球」を柱とする領域では、堆積岩と火成岩の違いを整理できていない生徒が見られた。短答式の問題では正答率が高いことから、授業で学習した知識や用語はある程度理解してはいるものの、複数の条件や選択肢があるとつまづいてしまう生徒が一定数いると考えられる。</p>	<p>全体の正答率は、全国平均とほぼ同じ結果となったものの、問題別に見てみると全国平均を上回る問題も多くあった。特に「粒子」を柱とする領域では、正答率が高かった。例えば、水の電気分解を粒子レベルで考える問題では、目に見えない粒子をモデル化することで質量保存の法則を導き出すことができている。授業において、実験結果→化学変化の流れ→粒子のモデル化を一連の流れとして、実験から考察までを繰り返し行った成果であると考えられる。しかし、正答率が高い問題においても無解答率が高い傾向にあることが課題である。科学的に考える力・意欲が二極化していると考えられる。</p>



分析結果・自校の課題	<p>「知識・技能」の観点については、すでに夏休みの課題として出している1. 2年生の要点復習を利用した小テストを実施し基礎基本の定着を目指したい。また、タブレットを活用したドリル学習にも取り組み、個人の習熟度に合わせた学習につなげたい。</p> <p>「思考・判断・表現」の観点については、授業で意図的に思考したり記述したりする場面をつくり、班学習などの「学び合う活動」を活用した問題解決学習を取り入れていきたい。また、単元ごとにふりかえりを実施することで、単元のまとめと習熟度のメタ認知を行い、主体的な学びにつなげたい。</p>
------------	--